

令和四年度 卒業式 式辞

卒業証書を手にした六年生のみなさん。

今、どんな気持ですか。

卒業証書は、言ってみれば 一枚の紙です。

でも、その一枚の紙には、みなさん自身の努力、

仲間との泣き笑いの日々、

先生方、地域の皆さんの願い、

そして何よりも、みなさんを愛し、育んでくださった

保護者、家族の皆さんの思いがずっしりとつまっています。

どうか、その重みを感じてくださいね。

今日は、卒業式。小学校生活の終わりは、

新たなるステージの始まりでもあります。

この六年間で身に付けた力を確かなものにする。

様々な挑戦をして自分自身を磨く。鍛える。

そして自分なりの自己ベスト更新を目指していく。

そんな毎日を積み重ねてください。

これからの時代、そして未来を担い、

リードしていく皆さんの活躍が、楽しみです。

新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの日常を大きく変えてしまいました。

上級生として思いっきり活躍しようと思ったのに、いろいろな場面で、我慢と辛抱を強いられ、悔しい思い、哀しい思いもしましたね。

でも、皆さんは、明るく前向きな姿勢を失わず、チームワークの良さを発揮して自分たちで学校生活を楽しく、豊かなものにしていましたね。

その姿に、私たち大人の方が励まされました。

皆さんが生まれた頃に起きた東日本大震災。

それから十二年の月日が経ちました。今もなお、深い悲しみは癒えていません。

最近も、とても大きな地震が各地で発生し、人々の不安を大きくしています。

また地球温暖化の影響でしょうか。ここ数年はとても大きな気象災害が発生し、各地に甚大な被害をもたらしています。

そして、今回の感染症のように、目には見えないウイルスとの戦いも起きています。どれもみな、私たちの当たり前の日常を脅かしています。

自然がもつ、圧倒的な力を目の前にして、人は時に、無力感で一杯になることもあります。

でも、私たちはそれらを受け入れ、立ち向かっていかなければなりません。

どんなに科学や最先端技術が進歩しても、豊かで安心できる社会を作っていくのは私たち人間自身です。私たち一人一人の「人間としての底力」が試される。そんな時代になるのです。

コロナ禍の苦しい三年間を乗り越えてきた皆さんは、間違ひなく、そんな時代の主役です。

自分の良さに更に磨きをかけ、世の中に、あなたらしく光を当て続ける、そんな人生を歩んでください。

保護者の皆さま、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。保護者の皆様におかれましても、この三年間は、不安な状況が続き、お子様と共に、悔しく、悲しい思いで一杯だったことと思います。

本日、このように卒業式を迎えられたのは、保護者の皆さまのご理解とご協力、そしてお子さんたちへの励ましがあったからこそです。本当にありがとうございます。

皆さまの愛情を受けながら一生懸命に頑張った子供たちは、今日、このような立派な姿で小学校を巣立とうとしています。

お喜び、感慨もひとしおのことと思います。

本日ご出席を賜りましたご来賓の皆様。

日頃より本校の教育活動へのお力添えと、卒業生たちへの温かな励ましをいただきありがとうございます。

皆様のサポートが力となり、子供たちも、そして私たち教職員も安心して日々、頑張ることができました。心より感謝申し上げます。

さあ、卒業生の皆さん 別れの時です。

これからは、一人一人、全ての生き方が尊ばれ、誰もが幸せに暮らしその命を輝かすことができる

「共生社会」をみんなで作っていかなければなりません。みなさんが、その担い手となり、そして何よりも

あなた自身が、幸せに生きていくことを、強く、強く 願っています。

ご卒業 本当におめでとう ございます。

令和五年 三月二十四日

多摩市立大松台小学校 校長

小島 徹